

## 大通公園を望む窓辺から

### ゲートボール

副会長 藤原 秀俊

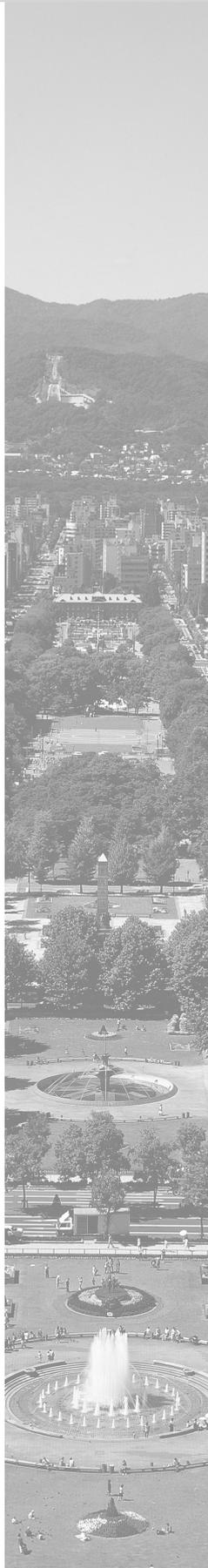
開業から3年目の1990年からゲートボール（以下GB）大会を開催し地域の方々と楽しんでできました。GBは以前から高齢者のスポーツとして親しまれ、あちこちの公園で楽しむ方々がたくさんいました。私も地域の方々と一緒に昼食を楽しみ、それぞれの方が持参する自慢の漬物を頂いたり（実は私は漬物が最大の苦手ですが、頂いたものは食べます）、ゲーム後はバーベキューをしたりお酒を飲んだりして楽しんでできました。

ゲームは5人一組で対抗戦です。誰もがそのゲームのヒーローになれ、また敗因を一身に背負うことにもなります。ボールの方向性と距離感、そして途中での地面の凹凸であらぬ方向へ行く意外性がとても魅力的でした。

今年は法人の28回大会の予定でしたが、地域の方が5名しか参加できず、当法人から5名参加し競技を行うこととなりました。一時は100名以上の参加者がいて、参加者を絞るのに苦労をしたことを思えば隔世の感があります。

GBは1947年鈴木栄治氏が考案し、北海道芽室町が発祥の地です。当時は遊び道具が少ない子供たちのために始められました。1990年頃には国内の競技人口は600万人であったものが、近年は100万人に減少しています。しかしこの間、世界50カ国に普及し競技人口は1500万人とされています。

国内の競技人口が減少した原因は①5人で1チームのため、仲間を探すのが大変②老人のゲームというイメージのため（じじ臭い）③1999年鹿児島県でのGB殺人事件④いじめ問題⑤スポーツの多様化⑥グラウンドゴルフやパークゴルフの普及一などが挙げられています。しかし最大の原因は、若い世代を引き込む努力を怠ってきたものと思われまふ。どのような競技でも競技人口が減少することは、衰退を意味します。これは組織においても同様であり、医師会においてももしかかであると思われまふ。



### 私の草野球人生

理事 沖 一郎

草野球人生の始まりは苫小牧での小学校時代です。2年生ごろからクラスメートや近所の友達や弟と、何となくチームができて毎日のように学校のグラウンドや近所の公園や空き地で、人数が足りない時は三角ベースや勝手にルールを作って遊んでいました。

中学、高校では周りに草野球の環境もなく、かと言って野球部に入る度胸もなく、あまり運動もせずに過ごし、大学では麻雀のメンバーを探しに行くような学生でした。その時それを見かねた当時の解剖学の助教授の井上芳郎先生（後に北大医学部長、解剖学教授）から草野球チームを作ってみてはとの提案があり、呼び掛けたところ金時計組から落ちこぼれまで十数人が集まり早速チームができました。チーム名はウッドペッカーでした。皆でそろえた帽子にウッドペッカーが偶然ついてたせいでした。ただだららとしていた連中がそれからは毎週週末には工学部チームや他の大学チーム、社会人チームなどと試合をしてすっかりと健康な学生になっていました。

北大の二内に入局するとちょうど野球チームを作るところでしたので、一緒にいていただき最初の練習試合で投手として完封したため、それ以後10年間位投手をさせてもらいました。

野球部出身の桜間先生や、今は亡き河野通史先生など医局のさまざまな先生と知己をえることができ中川教授や医局の皆さんに応援されたのが良い思い出です。

しばらくは草野球から遠ざかっていましたが、50歳ころ苫小牧の小児科開業医の藤林先生の音頭で、昔の草野球をやろう！と呼び掛けたところ開業医、勤務医が10人以上集まり、苫小牧市医師会メドックスを結成しました。対戦相手は地元警察署、保健所、市役所、製薬会社諸君、さらには北海道医師会野球部の皆さんと札幌のつどいむや札幌ドームで対戦したり、苫小牧に遠征していただいたりと、現在まで交流が続いています。終わった後の反省会の飲み会はさらにさらに楽しい思い出です。

私の人生を通して草野球はこんなにいろいろと発展するとは思っていませんでしたが本当にチームの面々、対戦チームの皆様には感謝感謝です。まだまだ野球やるぞ！！！！！！